



2025年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年4月14日

上場会社名 株式会社 A B E J A 上場取引所 東
コード番号 5574 URL <https://www.abejainc.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役 C E O (氏名) 岡田 陽介
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 C F O (氏名) 英 一樹 T E L 03-6387-9222
半期報告書提出予定日 2025年4月14日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年8月期第2四半期（中間期）の業績（2024年9月1日～2025年2月28日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期中間期	1,807	26.9	289	43.4	292	44.6	244	43.4
2024年8月期中間期	1,424	1.2	202	△41.5	202	△41.5	170	△50.5

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期中間期	26.15	23.62
2024年8月期中間期	19.35	16.39

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期中間期	4,716	4,166	88.3
2024年8月期	4,239	3,898	91.8

(参考) 自己資本 2025年8月期中間期 4,162百万円 2024年8月期 3,894百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年8月期	-	0.00	-	-	-
2025年8月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年8月期の業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,450	24.7	370	27.4	373	30.1	359	64.1	38.30

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 業績予想の修正については、本日（2025年4月14日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 中間財務諸表及び主な注記(4) 中間財務諸表に関する注記事項(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年8月期中間期	9,405,600株	2024年8月期	9,260,900株
② 期末自己株式数	2025年8月期中間期	79株	2024年8月期	一株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年8月期中間期	9,340,808株	2024年8月期中間期	8,806,986株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手について)

当社は、2025年4月14日(月)に機関投資家及びアナリスト向けに説明会(ウェブ)を開催する予定です。なお、当日使用する決算説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社は「ゆたかな世界を、実装する」を企業理念に掲げております。この企業理念のもと、テクノロジーの産業界への社会実装を支援することにより、産業横断的なイノベーションを創出することを目指し、ミッションクリティカル業務へのAI導入支援のため、基盤システムとなるABEJA Platformの開発・導入・運用を行っております。

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が進むなか、国内景気は緩やかな回復の動きがみられます。一方で物価上昇、アメリカの政策動向、為替動向等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の事業環境としましては、ビジネスプロセスのデジタル化や既存のビジネスモデルを変える新たな試み、大規模言語モデル (Large Language Model : LLM) といった生成AIへの関心・利活用など取組みは広がりをみせ、企業のIT投資への意欲は引き続き強いものとなっております。今後は少子高齢化に伴う労働生産人口の減少、働き方改革を背景に、多くの企業においてその動きが一層活発化するものと捉えております。

このような環境の中、当社はミッションクリティカル業務における堅牢で安定的な基盤システムとアプリケーション群であるABEJA Platformを提供し、生成AIをはじめとする最先端技術による運用を人とAIの協調により実装してまいりました。

当中間会計期間の売上高はLLM案件が牽引したことで想定を上回り、中間会計期間の過去最高の売上となりました。売上総利益率は60%超と良好な水準を維持しております。また、当第2四半期会計期間(2024年12月~2025年2月)の売上は1,039,227千円となり、四半期単位においても過去最高となりました。今後も継続的な改善及び企業や事業の状況をより見定めた質の高い提案を推進し、安定的な成長に繋げてまいります。

当中間会計期間においても引き続きLLM関連を注力領域として推進いたしました。2024年10月に採択された国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構 (NEDO) の「競争力ある生成AI基盤モデルの開発(助成)」プロジェクトでは、前回の採択プロジェクトから得られた知見を活用し、「高性能かつパラメータを抑えた小型モデル」の研究開発を進めております。同プロジェクトは順調に進行しており、複数の汎用言語性能指標で「GPT-4」を上回る性能に到達した32Bの小型化モデルの開発などの成果がでてきています。また、当社が共同研究開発機関として参画する日本語版医療LLMの開発にも注力いたしました。加えて、エンタープライズ企業とのLLMユースケースの創出、上記小型化モデルのエッジ環境への実装(利便性の向上)など、LLMの社会実装に向けて着実に前進しています。

また、2025年3月7日に一般社団法人AIロボット協会に正会員企業として参画しました。当社はこれまで蓄積してきたLLM関連の知見やノウハウをロボットと融合させる(AIロボティクス関連)など、LLMの適用範囲の拡張を進めてまいります。

この結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高1,807,951千円(前年同期比26.9%増)、営業利益289,976千円(前年同期比43.4%増)、経常利益292,253千円(前年同期比44.6%増)、中間純利益244,294千円(前年同期比43.4%増)となりました。

当社はデジタルプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

なお、売上高については、「トランスフォーメーション領域」と「オペレーション領域」に分類しており、2024年8月期及び2025年8月期中間会計期間の実績は次のとおりとなります。

(単位：千円)

領域の名称	2025年8月期 中間会計期間(実績)		2024年8月期 (実績)	
		構成割合		構成割合
トランスフォーメーション領域	1,420,407	78.6%	2,104,350	76.1%
オペレーション領域	387,543	21.4%	661,901	23.9%
合計	1,807,951	100.0%	2,766,251	100.0%

トランスフォーメーション領域は、顧客ニーズに対応したABEJA Platformの導入支援とその周辺サービスを提供しており、仕組みづくり・構築フェーズに位置づけられます。なお、仕組みづくり・構築は段階的に進めていくため、多くの収入はフロー型(都度契約)となりますが、一方で長期間にわたる計画的なプロセスとなるため、継続顧客の割合は高くなっております。

・継続顧客からの売上比率(注)81.2%(2024年8月期)

(注)継続顧客からの売上比率は、既存顧客(前事業年度に売上が発生した顧客)の当事業年度の売上高/当事業年度の売上高

オペレーション領域は、ABEJA Platform上で人とAIの協調による運用を行う運用フェーズに位置づけられます。このため、主な収入はストック型の継続収入となります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末の資産合計は、4,716,563千円となり、前事業年度末に比べ476,743千円増加いたしました。これは主に売上債権及び未収入金の回収により現金及び預金が781,720千円増加したこと、売上高増加に伴い売掛金及び契約資産が348,724千円増加したこと、助成金の回収により未収入金が631,751千円減少したこと等によるものです。

(負債)

当中間会計期間末の負債合計は、550,389千円となり、前事業年度末に比べ208,631千円増加いたしました。これは主に法人税等の計上により未払法人税等が64,179千円増加したこと、売上高増加に伴い未払消費税等が73,531千円増加したこと等によるものです。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、4,166,173千円となり、前事業年度末に比べ268,111千円増加いたしました。これは主に新株予約権行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ12,224千円増加したこと及び中間純利益の計上により利益剰余金が244,294千円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べ781,720千円増加し、3,650,630千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、767,362千円となりました(前年同期は170,674千円の支出)。これは主に税引前中間純利益292,253千円の計上や売上債権の増加額348,724千円、未収入金の減少額631,751千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、9,090千円となりました(前年同期は12,075千円の支出)。これは有形固定資産の取得による支出9,090千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、23,448千円となりました(前年同期172,017千円の収入)。これは主に新株予約権の行使による株式の発行による収入23,598千円等によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当中間会計期間における業績動向を踏まえ、2024年10月10日の「2024年8月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表いたしました2025年8月期の通期業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2025年4月14日)公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当中間会計期間 (2025年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,868,910	3,650,630
売掛金及び契約資産	452,836	801,560
仕掛品	5,450	13,066
貯蔵品	4,588	5,408
未収入金	685,223	53,471
その他	92,718	58,576
貸倒引当金	△738	△738
流動資産合計	4,108,988	4,581,975
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	14,288	23,378
減価償却累計額	△4,444	△7,784
工具、器具及び備品(純額)	9,843	15,593
有形固定資産合計	9,843	15,593
無形固定資産		
ソフトウェア	18,479	16,485
無形固定資産合計	18,479	16,485
投資その他の資産		
繰延税金資産	95,508	95,508
その他	7,000	7,000
投資その他の資産合計	102,508	102,508
固定資産合計	130,831	134,587
資産合計	4,239,819	4,716,563
負債の部		
流動負債		
買掛金	16	35
未払金	87,818	134,254
未払法人税等	1,696	65,875
賞与引当金	116,853	167,892
役員賞与引当金	—	20,256
その他	135,373	162,075
流動負債合計	341,758	550,389
負債合計	341,758	550,389
純資産の部		
株主資本		
資本金	832,282	844,506
資本剰余金	2,615,859	2,628,084
利益剰余金	445,945	690,240
自己株式	—	△149
株主資本合計	3,894,087	4,162,681
新株予約権	3,974	3,491
純資産合計	3,898,061	4,166,173
負債純資産合計	4,239,819	4,716,563

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
売上高	1,424,672	1,807,951
売上原価	484,059	687,058
売上総利益	940,613	1,120,892
販売費及び一般管理費	738,364	830,916
営業利益	202,248	289,976
営業外収益		
受取利息	17	1,439
受取手数料	704	1,063
その他	417	847
営業外収益合計	1,139	3,350
営業外費用		
支払利息	159	—
為替差損	23	590
株式交付費	1,065	368
その他	0	114
営業外費用合計	1,248	1,073
経常利益	202,140	292,253
税引前中間純利益	202,140	292,253
法人税等	31,745	47,959
中間純利益	170,394	244,294

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	202,140	292,253
減価償却費	1,512	5,334
賞与引当金の増減額(△は減少)	△10,794	51,039
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	—	20,256
受取利息	△17	△1,439
支払利息	159	—
株式交付費	1,065	368
売上債権の増減額(△は増加)	△149,864	△348,724
仕掛品の増減額(△は増加)	△1,881	△7,616
貯蔵品の増減額(△は増加)	2,505	△819
未収入金の増減額(△は増加)	△182,303	631,751
仕入債務の増減額(△は減少)	531	19
未払金の増減額(△は減少)	180,733	56,723
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△15,180	4,784
その他	△110,488	50,693
小計	△81,882	754,624
利息の受取額	17	1,439
利息の支払額	△159	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△88,649	11,299
営業活動によるキャッシュ・フロー	△170,674	767,362
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,123	△9,090
無形固定資産の取得による支出	△9,977	—
従業員に対する貸付金の回収による収入	4,998	—
その他	27	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,075	△9,090
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△149
新株予約権の行使による株式の発行による収入	172,017	23,598
財務活動によるキャッシュ・フロー	172,017	23,448
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△10,731	781,720
現金及び現金同等物の期首残高	3,540,535	2,868,910
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,529,803	3,650,630

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。